

長念寺平成大改修 揚家・曳家工事見学会

松井建設株式会社東京支店

文化財の保存修理

文化財の保存修理では、建物の歴史的な価値を確かめ、その価値を損なわないように修理する必要がある為、綿密な調査を行います。今回の旧庫裡改修では創建時の復原を目指しています。

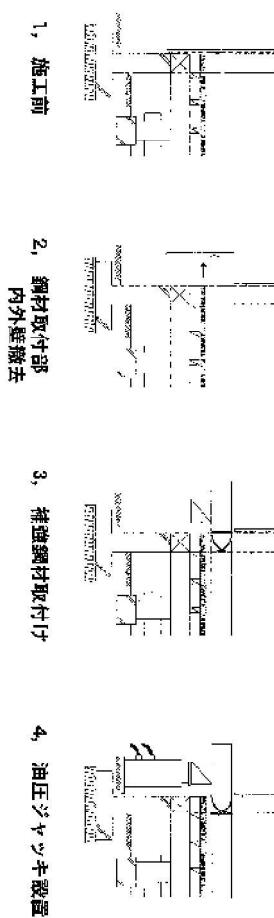
創建から現在に至るまでに増改築がなされた部位に、現在に至るまでに増改築がなされた部位を解体、柱仕口等を調査し、創建時の形状を推定していきます。また増改築でない創建当時からの部位も、解体する為に解体工具を傷めないよう丁寧を使い、解体出来るよう、解体した材料に『番付札』と呼ばれる板札を付け、野帳に残していきます。

揚家・曳家の理由と方法

今回の工事計画上、旧庫裡の位置の移動があり、方法として全解体して、移動先にて再構築等の方法もありますが、曳家工法を選定した理由は、文化財をなるべく現状のまま保存修理する為です。

方法は、『腰付け移動工法』を採用しています。

腰付け移動工法作業手順



川崎市重要歴史記念物 長念寺 庫裡の歴史

長念寺 庫裡の歴史

寄棟造・茅葺の当庫裡は正面に武家風の玄関を設ける格式の高い形式を持つ。また10帖敷きの書院は客座敷としてまとまりを見せており。住職の居間を南側の台所隣に置き、中二階を隠居部屋とするのもこの庫裡の特色である。建立年代は資料を欠くが、秀善住職の時、庫裡を再建したと伝える。玄関寄り付きの大黒柱の使用や、中二階の通し柱に合わせた軒の高い構成、及び雨戸を多用する点などに、江戸時代末期の特徴が認められ、本堂よりやや遅れて再建されたと推定される。一部後世の改造を受けているが、全体的にみると、当初の形式をよく保っており大変貴重な建築物として、(川崎市役所HPより抜粋) 平成2年1月23日 市重要歴史記念物に指定される。

実際に曳家している時の参考写真



↑ ハーベル上に据付



→油圧にて移動

曳家は建物以外でも行います



↑鳥居の移動



↑大木の移動